

(2)学校教育：学校教育の充実

村が考える住民の皆さまの幸せのかたち

- 「子どもへの食育の推進」
- 「未来を担う子どもたちの育成（自主性）（論理的思考）（自己表現）」
- 「誰ひとり取り残さない教育環境」
- 「学校と家庭の連携が十分に取れる環境」
- 「教職員の研修の充実」
- 「子どもがすこやかに育つ地域の形成」
- 「郷土に誇りを持つ人材の育成」
- 「高齢者との交流」

施策の目的

ふるさと教育が行き届き、学園と地域の連携が進む村を目指すとともに、安心・安全でおいしい給食が提供される村を目指します。また、グローバル社会を生き抜く子どもを育むとともに、一人ひとりが主役となれるあたたかい支援体制を構築します。

現状を踏まえた課題

- ・飛島学園では年に数回程度、減農薬野菜を用いた給食を提供していますが、給食の安全性を一層高めるとともに、減農薬野菜を用いた給食や地産地消等の食育が求められています。
- ・給食費のさらなる保護者負担の軽減が求められています。
- ・飛島学園が開校して12年、小中一貫教育校から義務教育学校へ移行し、制度・運用面において小中一貫教育を一層推進する体制となっています。
- ・飛島学園は小規模校であることから大きな環境の変化がないため、学校に馴染めない生徒のケアや、高校進学後にギャップを感じない指導が必要となっています。
- ・ふるさとを愛する心の醸成に向けたふるさと教育の展開とともに、生徒の安全性を確保しながらも「地域に開かれた学校」を構築していく必要があります。
- ・地域や地元企業の協力により、総合的な学習や職場体験等で連携を進めていますが、本村の多様な産業集積を生かしたキャリア教育の構築が必要です。

▶取り組みの体系

【学校教育】 学校教育の充実	安心・安全な給食の無償提供
	生き抜く力の育成
	英語力を伸ばす教育の推進
	情報発信能力の形成
	地域との連携強化
	誇りを育む教育の推進
	インクルーシブ*教育システムの構築
	安全・快適な教育環境の構築
	特別支援教室の整備
	幅広い選択を可能にする制服等の検討
	通学時における安全確保
	ふるさと教育の推進
	他校との交流

※「仲間はずれにしない」「みんないっしょに」という意味で、インクルーシブ教育とは、障がいのある子ども、ない子ども、ともに学び、ともに育つことができるよう、最初から分けることなく包み込むことをいいます。

主な取り組み

① 安心・安全な給食の無償提供

減農薬野菜や無添加食材を用いた給食を可能な限り実施し、安全な給食のもとで食育を推進します。さらに、給食の無償化を進めるなどの充実を図ります。

② 生き抜く力の育成

情報通信技術（ICT）の活用や英語教育、SDG s 教育、体験学習等の充実により、国際社会において生き抜く力の醸成に取り組みます。

③ 英語力を伸ばす教育の推進

海外派遣を視野に入れた英語教育を推進するとともに、本村における英語関連の取り組みとの連携を図ります。

④ 情報発信能力の形成

子どもたちによる飛島学園や村の魅力発信に向けた教育を進め、情報発信能力を形成します。

⑤ 地域との連携強化

地域、保護者、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支援するような仕組みづくりを進めます。

⑥ 誇りを育む教育の推進

就学支援コーディネーター、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを配置して子どもたちの育成を包括的に支援します。地域や地元企業と飛島学園が連携し、交流を進める中で郷土に誇りを持てるような教育を進めます。

⑦ インクルーシブ教育システムの構築

教育のユニバーサルデザイン（UD）※化の推進を図り、教室の学習環境や学習内容の共通化について検討します。

※文化・言語・国籍や年齢・性別・能力等の違いに関わらず、できるだけ多くの人が利用できることを目指した建築（設備）・製品・情報等の設計（デザイン）のことをいいます。

⑧ 安全・快適な教育環境の構築

安全で快適な教育環境の実現を図るため、飛島学園の体育館における空調設備の設置を検討します。

⑨ 特別支援教室の整備

障がいのある生徒に合わせた施設整備を検討します。

⑩ 幅広い選択を可能にする制服等の検討

時代の流れや機能性を考慮した制服等の選定を検討します。

⑪ 通学時における安全確保

地域等による登下校時の指導・見守りを継続し、通学時における安全を確保します。

また、通学が遠距離となる生徒については、安全な通学手段の支援を検討します。

⑫ ふるさと教育の推進

地域や地元企業と飛島学園が連携し、交流を進める中で郷土に誇りを持てるような教育を推進します。また、むらづくりの取り組みへの自発的な参加を促すように進めます。

⑬ 他校との交流

子どもによる他校の活動事例の研究を推進します。成功体験を学ぶことで子どもの自発的な活動を促します。

計画指標	基準値 (令和 3 (2021)年度)	目標値 (令和 9 (2027)年度)
① 減農薬野菜を使用した給食の回数 ・令和 3 (2021) 年度の実績 (年 3 回) を令和 9 (2027) 年度まで段階的に増やし、年 10 回の実施とします。	年 3 回	年 10 回
② 給食費の無償化 ・令和 9 (2027) 年度までに実施します。	—	実施済
③ 学習者用デジタル教科書の利用促進 ・令和 3 (2021) 年度に実施している学習者用デジタル教科書の利用を継続します。	継続	継続
④ 海外派遣事業との連携 ・令和 3 (2021) 年度に実施している海外派遣事業との連携を継続します。	継続	継続
⑤ 情報発信の機会 ・令和 9 (2027) 年度までに子どもたちが村の魅力を発信する機会を設定し、以降、年 1 回の頻度で情報を発信します。	—	年 1 回
⑥ 地域との連携強化 ・令和 3 (2021) 年度に実施している連携を拡充・強化しつつ継続します。	継続	拡充継続
⑦ 就学支援コーディネーター等の配置 ・令和 3 (2021) 年度に配置している就学支援コーディネーター、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置を継続します。	継続	継続
⑧ 教室の学習環境等の共通化 ・令和 9 (2027) 年度までに教室の学習環境や学習内容の共通化について検討を進めます。	—	検討済
⑨ 飛島学園体育館の空調設備の導入 ・令和 9 (2027) 年度までに空調設備の導入について検討を進めます。	—	検討済
⑩ 特別支援教室の整備 ・令和 9 (2027) 年度までに整備方法を検討します。	—	検討済
⑪ 制服等の選定検討 ・令和 9 (2027) 年度までに保護者等のニーズを把握しながら検討を進めます。	—	検討済

計画指標	基準値 (令和 3 (2021)年度)	目標値 (令和 9 (2027)年度)
⑫ 通学時の指導、見守り ・令和 3 (2021) 年度に実施している通学時の指導、見守りを継続します。	継続	継続
⑬ 遠距離の生徒への対応 ・令和 9 (2027) 年度までに安全な通学手段を検討し、必要に応じて継続して対応を実施します。	—	検討済
⑭ 地域や地元企業と飛島学園の連携授業の実施 ・令和 3 (2021) 年度に実施している地域や地元企業との連携授業は令和 9 (2027) 年度にも継続して実施します。	継続	継続
⑮ 他校との交流 ・令和 9 (2027) 年度までに他校の活動事例を研究し、必要に応じて継続して実施します。	—	研究済

住民・行政の協働に向けて

▶**行政**：本村ならではの特色ある学校教育を展開し、ふるさとを愛する生徒を育てます。

▶**住民**：地域ぐるみで生徒の健全な成長を見守ります。